

2023年度産
自然栽培米コース案内

つくり手の言葉



収穫の喜び

野山の木々が紅く染まるころ
全国各地のお米農家さんから
作柄の連絡をいただきます。

お米が無事収穫されたことへの
深い安堵と感謝が
沸き上がってくる瞬間です。

田園風景に溶け込む1枚の田んぼ。
遠目には見えなくとも
その中では無数の生き物の躍動や
循環が繰り広げられています。

それを最も間近で見守りながら
田植えから収穫まで年間をとおして
心をくばり、汗を流してきたのが
お米のつくり手でしょう。

自然栽培米を育ててくださった
生産者さん方からの声を
ご紹介させていただきます。



つくり手のことば

ナチュラル・ハーモニーで販売する2023年度産のお米生産者の皆さんから届いた言葉を紹介いたします。

小川 一也さん（北海道鷹栖町）自然栽培開始年 2006年

子どもの頃から植物に興味があったという小川さん。食品や肥料の分析会社で植物の面白さを再確認し、新規就農しました。5年目できゅうりの栽培につまずき、次第に肥料や農薬、土に意識を傾けるようになりました。奥さんの体調不良も重なり、自然栽培を開始。肥料を使わなくなり、作物に追いつかなかった気持ちと愛情を再確認できるようになったと語ります。



<今年の作柄>

全国的に暑かった夏ですが、北海道も例外ではありませんでした。特にお盆を過ぎてからのムシムシした長期間の暑さは経験がありませんでした。その影響か、通常では稲株の枝分かれが終わって穂が大きくなる時期に、枝分かれが進んでしまい、穂と枝の生長に栄養が分散してしまったようです。結果、穂の成育が鈍り、実りが少なくなりました。稲の作付けを4反ほど増やし、張り切って仕事をしていたものの、昨年と変わらない収穫量となり、少し残念ではありますが、でも、うれしいこともありました。うちの田んぼでギンヤンマが羽化してくれました。赤蜻蛉や車蜻蛉、糸蜻蛉など小型のトンボはよく見かけますが、大型のトンボは初めてです。田んぼの草取りをしているとき、トンボの羽化の様子を見かけるともううれしい気分になりました。

<メッセージ>

暑い年は、お米が美味しくないとよく言われます。でも、私が食した限りでは、例年と変わらぬ美味しさだと思っています。自然栽培のお米と、そうでないお米、ここに違いが出てくるのではないのでしょうか？ぜひ、ご賞味頂ければと思います。

<栽培品種>①ななつばし（未） ②ゆきひかり（未）：「おてんと米」「ゆきひかり」にてお届けします。
※屋号…はたけ処らでいか

石山 宏さん（秋田県大潟村）自然栽培開始年 2005年

小さい頃から田んぼを手伝い、辛い思い出しかなかったと語る石山さん。東京から帰郷した時に父の範夫さんが始めていた自然栽培は模索中で、農作業は苦勞の連続だったといいますが、できたお米は美味しく、多くの方に食べて欲しいという思いが膨らんでいったそうです。今では、1年近く見守った稲を収穫するのが楽しいと語ります。



<今年の作柄>

自然栽培に携わり19年目の今年は、7~8月の記録的豪雨、8月~9月にかけての猛暑と、かつてないほどの異常気象に見舞われました。特に8月の平均気温が全国で最も高かった秋田県では夜の気温が下がらず、稲の成育には厳しい日が続きました。収穫したお米は高温障害によりシラタと呼ばれる白濁した粒が非常に多く品質が下がる結果となりました。

<メッセージ>

日頃から自然栽培ササニシキをご賞味くださいませありがとうございます。今年のお米は例年より見劣りするものの、消費者の方からは「例年より味が濃い」「風味が強い」と意外なお声をいただきました。元々ササニシキは他の品種に比べてシラタが発生しやすく、もしかするとこのシラタこそが独特な素朴な味わいに一役買っているのかもしれない。よりいっそう素朴味の強い令和5年産ササニシキを是非ともご賞味ください。

<栽培品種>①ササニシキ：「石山さんのササニシキ」「瑞穂のしらべ」にてお届けします。
※石山 範夫さんに替わり、宏さんからいただいています。

桑原 康成さん（秋田県大潟村）自然栽培開始年 2015年

元高校教師であり、今でも高校野球のコーチを務めている桑原さん。子どもたちの部活動観戦が好きだそうです。大規模営農を夢見て高知県から大潟村に入植した父秀夫さんと共に田んぼに立ちます。昨年からの栽培管理と経営を引き継ぎ、除草方法など新たな試みを取り入れながら変化していきます。



<今年の作柄>

6月の日照不足と7~8月の猛暑により収穫量は例年より減少しました。また着色粒も多く選別に苦勞しました。

<メッセージ>

ここ数年安定した気候にならず思い通りにはなりません、変わらず皆様に食べていただけていることに感謝しています。これを励みに来年以降も創意工夫してお米を栽培していきます。

<栽培品種>①ササニシキ：「かかしの夢」「瑞穂のしらべ」にてお届けします。

宮入 広光さん（秋田県秋田市）自然栽培開始年 2015年

学生時代から農業に興味があり、大学卒業後農業を学び就農した宮入さん。現代社会の問題解決を自分なりに求めていった時、自然栽培が答えになると考えたという宮入さん。苗を1本いっぽん手植えを行い、収穫した稲は天日干し、自分が納得できる丁寧な手作業を大切に育てています。手をかけた分、稲は実りを与えてくれるので、稲に信頼を置けるようになったといいます。



<今年の作柄>

洪水・日照り・長雨。今までにないハードな天候の中であって、きれいなお米が出来たことは一つの感激であり、幸いなことでした。

<メッセージ>

最近の激しい天候は耕作するものにとって大変なことです。自然栽培の稲作は強くたくましい素晴らしい栽培方法です。天日干しのお米は特に秋の風雨に耐えた気持ちのこもったお米になっております。日々の皆様の心身の糧になることを願っております。どうぞ、お召し上がりください。

<栽培品種>①コシヒカリ ②あきたこまち：「おてんと米」にてお届けします。

日野 賢二郎さん（宮城県石巻市）自然栽培開始年 2009年

有機栽培を実践していた日野さん、本当の安全な食材を求め自然栽培を開始しました。動植物に悪影響がなく、共生しながら食糧生産ができることは素晴らしいことだといいます。人間の思い通りの生育や収穫量が得られないことがあるのは辛いことですが、それも良い体験だと語ります。



<今年の作柄>

気温が高くササニシキにとって今年の高温はきつかったようです。しかし自然栽培のいいところが出て順調に育ってくれました。

<メッセージ>

過酷な天候に耐えて育ったお米は食べる皆様にとっても必ずプラスになるお米だと思います。ぜひお召し上がりください。

<栽培品種>①ササニシキ：「かかしの夢」にてお届けします。

阿部 知里さん（岩手県奥州市）自然栽培開始年 2007年

各地を訪ね歩いて見解を深め、自然栽培に取り組むようになった阿部さん。地域と自然栽培の可能性を見出すために、毎年食味コンクールにも出品し受賞も重ねています。嫌だった農業も、可能性や楽しさ、田んぼの気持ち良さも相まっていつのまにか好きになっていたと語ります。稲の本来のいのちが引き出された時、普遍的な美味しさが現れると信じ研鑽を重ねます。



<今年の作柄>

田植前（5月中旬）に右脚を痛め、杖を突きながら気合で苗の管理・田植えの準備をしていました。無理をした為に更に痛めて、田植えの時には松葉杖なしでは歩けなくなっていました。せっかく順調に育っていた苗でしたが、管理不足と高温などで台無しにしてしまいました。それでも何とか友人に手伝ってもらい、田植えは6月下旬に済ませることができましたが、植えるタイミングが3週間遅れた苗は絶望的でした。

今年の夏は岩手でも30℃以上の高温が記録的に続き、様々な農作物に影響がありました。しかしそれが幸いし、さらに雪解け水も豊富に流れてきたので、自然栽培の圃場では稲の生育が挽回できました。また、10年以上自然栽培で稲作をしてきた圃場は、弱ってしまった苗たちを温かく包み込み、癒してくれました。自然栽培の圃場の奇跡を見せてもらったような気がしています。

<メッセージ>

いつも、ありがとうございます。皆様のお陰で、今年も自然栽培の稲作を続けることができました。今年ササニシキとかがねもちは、何とか予定の最低限の数量をお届けすることができました。しかし亀の尾は除草（攪拌）のタイミングを体調不良で逃してしまい、大減収となりお届けすることができませんでした。楽しみにしていたお客様もいらっしまったと思います。お届けできず大変申し訳ありませんでした。全体的に生産量は少なかったのですが、異常気象下でも今までと同じように、品質・食味等は良くできました。どうぞ安心して召し上がってくださると嬉しいです。

<栽培品種>①ササニシキ：「阿部さんのお米」「瑞穂のしらべ」にてお届け。

眞嶋 稔さん（山形県遊佐町）自然栽培開始年 2003 年

米づくりと平飼いの養鶏に取り組んでいます。自然の営みを感じながら、稲に必要なことや必要な作業を考えることが難しいからこそ楽しいと語ります。農閑期になると栽培の種類を問わず盛んに勉強会に参加し、自分の農業に起きている現象を論理的に解釈したいと話します。



<今年の作柄>

今年の日本海側は災害級の暑さだったと思います。なんとか水不足にはなりませんでした。お米の品質は悪くなってしまいました。ササニシキにとっても厳しい年でした。天候はどうすることもできませんが、田んぼを見つめ日々の作業をしっかりする事が大切だと思いました。その中で新しい発見もあったので、次にかしたいと思います。

<メッセージ>

一生懸命つくりましたが、今年は少しやわらかいお米になっていると思います。大切に育てました、たくさん食べて頂きたいと思います。

<栽培品種>①ササニシキ：「かかしの夢」「瑞穂のしらべ」にてお届けします。

荒生 秀紀さん（山形県酒田市）自然栽培開始年 2010 年

会社員を経て、最初は自分で食べるための米づくりを始めた荒生さん。ふとしたきっかけで大学で無施肥での稲の研究を始めたのが自然栽培との出会いでした。農学博士でもあり、なぜ肥料がなくても育つか考えるのが面白いのだそう。自然栽培で田んぼの生きものが増え、また、様々な人と出会える機会も増えて、これほど魅力的な農業はないと語ります。



<今年の作柄>

今年は春の大雨、夏の猛暑と例年になく環境でのお米作りでした。これは、人間にとってだけでなく、植物にとっても過酷な環境だったと思います。そんな中でも稲たちは元気にスクスク育ち、今年もまた私たちに恵みを与えてくれました。これらの厳しさや優しさもすべて自然のチカラです。私たちは自然の中で支えられ、守られ生きていることを強く実感した一年でした。今年のこの環境でしか出会うことのできないお米をぜひ堪能してください。

<メッセージ>

今年は例年になく環境での稲作でした。その分大変だったこともありますが、多くの学びや気づきもありました。よく「米を作る」「稲を育てる」などの表現をしますがそれ以上に自然から私たちが育てられることの方が多くある気がします。一番自然のそばで生活ができ、稲の育つ様を身近に感じ、日々感謝があります。皆様に食べていただいて、お米たちの命の循環が一巡します。そしてまた、春に種をまきお米たちの命の循環が始まります。これもまた、大きな感謝です。これからもよろしくお祈りします。

<栽培品種>①コシヒカリ：「かかしの夢」「瑞穂のしらべ」にてお届けします。※屋号…荒生勘四郎農場

綱川 稔さん（栃木県芳賀町）自然栽培開始年 2003 年

父親から田畑を受け継ぎ就農した綱川さん。お米のほか野菜も多品目作付けし、消費者に向けて野菜セットを届けています。栽培する農林 48 号は父の代から 30 年以上自家採種を続けています。自然栽培を始めて、土の力や作物の生命力など自然の道理を探求する中で、大自然の恵みに感謝できるようになったそうです。



<今年の作柄>

今年の作柄は「猛暑」の影響に尽きると思います。毎年稲の生育前半は草の対策に専念しておりますが、今年は後半になっても草が多く発生して田んぼを覆いました。玄米の粒の大きさはいつもより小さいようで、粒数も少なく平年より1割以上減収の年となりました。

<メッセージ>

自然栽培のお米たちを日々の活力の源としていただき誠にありがとうございます。先代より農場を引き継いで30年になりました。古いものは40年以上経過した品種もあります。これまで継続して来られたのも消費者の方々の支えがあればこそです。周辺地域において自然栽培・自家採種に取り組む農家がわずかではありますが出てきております。今後はそのようなみなさんと情報を共有して進んでいければと思っています。

<栽培品種>①農林 48 号 ②コシヒカリ：「かかしの夢」にてお届けします。

木村 純さん（宮城県石巻市）自然栽培開始年 2006 年

除草に苦勞しながら無農薬で米づくりに取り組む両親の姿を見て農業に夢を抱き、食品業界を経て就農した木村さん。「稲は完璧で、全てが備わっている。それを引き出すのが農家の仕事だと思います」と、自身の子育てから米づくりのヒントを得たそうです。米が軽視されがちな時代ですが、あらためて日本人の生を繋いできた米への敬意を伝えていきたいと語ります。



<今年の作柄>

今年は例年にない猛暑の中、自然栽培のササニシキは良く育ってくれたなと感じております。

<メッセージ>

いつもありがとうございます。田んぼの中のザリガニが茹で上がる程、水温も高くなるという過酷な環境のもと、例年より粒が小さめではありますが、ササニシキらしい仕上がりになったと思います。逞しいササニシキをどうぞご賞味下さい。

<栽培品種>①ササニシキ：「かかしの夢」「瑞穂のしらべ」にてお届けします。

※屋号…田伝むし

浦山 利定さん（宮城県色麻町）自然栽培開始年 2003 年

山菜や川魚のような自然の恵みの素晴らしさを伝えたいとレストランを開業した浦山さん。身体が喜ぶようなお米もお店で出したいという気持ちから、米づくりを始めました。幼い頃食べていたお米を思い出させる自然栽培米に魅了され、これまで試行錯誤を重ねてきました。「すべてはオーライ！」という言葉に胸に、苦しい状況でも必ず道は開けると信じ歩んでいます。



<今年の作柄>

今年は催芽機（発芽させる機械）を使ってみました。種まきからできるだけ早く大きくして、若くして元気な苗を植えたかったからです。これは結構うまくいきましたが、その後アクシデント（田植え機の故障）があり、「何年経ってもなかなかうまいようにいがねもんだ♪」ということで結局は平年並みの収穫量になりました。

<メッセージ>

稲刈りの終わったある日の朝、「今晚の米ないよ！」と急に言われたので、麴用の中米（選別で取り除かれたお米）を持っていきました。夕飯になり、みんなわかるかなと見ていると、おいしそうに食べていました。私も食べてみました。「うまい！」自然栽培は中米でもうまい！

<栽培品種>①ササニシキ：「浦山さんのお米」にてお届けします。

橋詰 善庸さん（石川県加賀市）自然栽培開始年 2008 年

18歳で就農した橋詰さんは、体調を崩したことをきっかけに田んぼを全て有機栽培に切り替え、その後自然栽培にも取り組むようになりました。販売につまづくことがあっても、悩みの先には希望のドアが開くことを信じて進んだそうです。自然栽培は、成功も失敗も面白い。失敗しても新しい発見ができ、興味が尽きないんですと好奇心旺盛に語ります。



<今年の作柄>

今年の稲作は予想の範囲を超える記録的な猛暑の中での作業となりました。「地球温暖化」から「地球沸騰化」とも表現されるようになり、どうする・どうしようと心配することも多くなっています。その中で自然栽培のお米が最も収量・品質が良かったことが来季への力となり光となっております。

<メッセージ>

いつもお求めいただきまして誠にありがとうございます。皆様の変わらぬ熱い応援を受け支えられて生産に励んでおります。今年のお米は「太陽がいっぱい」の中で本当に健康でたくましく生長して実ってくれました。この自然・野性味溢れた生命力そのもののようなお米をよろしく願いいたします。

<栽培品種>①コシヒカリ ②滋賀羽二重餅（未・もち米）：「瑞穂のしらべ」にてお届けします。

小堀 真市さん（千葉県香取市）自然栽培開始年 2004年

5代続く米農家に生まれた小堀さんは、鮮魚店や和食店の板前などで積み重ねた経験を生かして、すし店を開業。シャリに使うお米を自ら栽培しています。また、そのお米を原料に製造したどぶろくも自店で提供しています。



<今年の作柄>

不耕起ですから、相変わら田んぼの中の除草作業は、草が出にくいのでほとんどありません。一番の重労働が除草作業ですから、非常に助かっています。そして、病害虫も怖い台風被害もありませんでしたが、何故か収量は例年より落ち、少しガッカリもしております。

<メッセージ>

味は変わらず上等で、コシヒカリですが粘り過ぎず、甘過ぎない、優しい自然米の特徴が出ています。よかったら、田んぼの見学にお出下さい。

<栽培品種>①コシヒカリ：「かかしの夢」「瑞穂のしらべ」にてお届けします。

木戸 将之さん（奈良県桜井市）自然栽培開始年 1992年

就農当時、周囲の生産者と同じような方法で米づくりに取り組んだ木戸さん。しかし稲が元気に育たず、古い文献を元に模索するようになったそうです。読み取れたのは、技術だけではなく稲に対する気持ちの強さでした。木戸さんは、種籾を一粒ずつ乾いた土の上に置いて苗を一本いっぽん丁寧に育てます。種一粒の力が発揮できるように気持ちを込めて田んぼに向かいます。



<今年の作柄>

今年は初めて苗代にモグラが入りましたが、対処して乗り切ることができました。高温や梅雨明け以降の雨不足などいろいろな事が毎年のようにありますが、稲の適応能力にはいつもながら感心させられます。一部で不耕起、直播きも実施していますが、どれも同じように元気に育ってくれました。

<メッセージ>

「一粒の種籾の持っている力を 最大限に発揮させてあげたい」「稲は稲らしく、のびのびと育ててほしい」そんな先人たちの稲作に取組む姿勢を学び、今年も農の道に自然に寄り添いながら取り組みました。私の田んぼの稲は、化学肥料や農薬を使用せず、藁・籾殻・米糠も入れず、自然の恵みである土とお日様、山自体が御神体とされている三輪山からの水で育てています。田んぼごとの土に馴染んだ種籾を自家採種し、稲刈りをした後は天日干しでじっくりと時間をかけてお日様と風で乾燥させていきます。このように手間がかかるため、目の行き届く小規模稲作になります。猛暑もありましたが稲自身の持っている環境適応能力を発揮して元気に育ってくれました。田んぼは稲を栽培するだけでなく、たくさんの生き物・微生物・菌たちと共存し命の循環が行われ、稲刈り前から冬草が芽吹いてきて緑の絨毯になり、何も投入しなくても田んぼを豊かにしてくれます。そんな田んぼで、たくましく生命力豊かに育ったお米を食べて頂けることが何よりの喜びです。

<栽培品種>①トヨサト（未） ②東海旭（未）：「木戸さんのお米」にてお届けします。

江本 義弘さん（兵庫県淡路市）自然栽培開始年 2012年

代々続く農家の13代目という江本さん。毎年田んぼの上に何十羽ものツバメが旋回し、家や納屋の軒先に巣をつくる様子を眺めるのが楽しみになっています。若い頃は好きではなかった農業が、今では天職のように思えると語ります。



<今年の作柄>

父親が満80歳になり体力が衰え始めてきたため、今年から父の後継として米の自然栽培にチャレンジしている江本卓弥です。どうかよろしくお願ひします。今年の夏は前例のない猛暑が続きましたが、それを乗り越えいつも通り実ってくれた稲さんに心から感謝しています。実った稲をコンバインで端から収穫して進むのですが、刈り取りが終わるにつれてどこからともなく多くのツバメがやってきて旋回している光景を目の当たりにしてびっくりしました。田んぼには、多くの虫さんや、さまざまな生き物がいるのだなあと感じました。これから田んぼを耕し、約8ヶ月間ゆっくり休ませ地力を蓄えます。

<メッセージ>

昔から米作りは土作りと言われていて、これから父の教えを教訓にするとともに自然や植物との対話を大切に米作りに励んでいきます。自然の生態系をできるだけ損なわないよう『土・土壌』本来の力を活かしながら「持続可能な農業の確立」を図ることを大きなテーマとして日々邁進していきます。今年も無事収穫できました。真心こめて育てた安全・安心のお米です。どうぞご賞味下さい。

<栽培品種>①コシヒカリ：「かかしの夢」「瑞穂のしらべ」にてお届けします。

反田 孝之さん（島根県江津市）自然栽培開始年 2009年

山が大好きな反田さん。大学在学中に全国の山々を渡り歩き、たくさんの農村風景を眺めているうちに農業に興味をもったといいます。現在は、お米・ごぼう・大豆を奥さまと二人三脚で栽培。好きな農業で生計を立て大好きな家族に囲まれた暮らしに充足感を感じるからこそ、農業者だけでなく消費者にも自然栽培を広げたい、伝えてゆきたいと語ります。



<今年の作柄>

昨年続き、除草がそこそこできたおかげで大失敗にはなりませんでしたが、まだまだ草は多く収量は低いまですが、自然栽培7年目の田んぼたちがゆっくりとでもいい方へ変化していると実感しています。ただ唯一、ひとつの圃場でなぜか「もん枯れ」が激発してくず米が多発。「今さらもん枯れか〜」と面食らってしまいます。でもこれが来年以降どうなるのか楽しみになるところが自然栽培の面白さでもあります。

<メッセージ>

私たちの農産物を食べてくださる多くの方が、いったいどのような方なのか私には知る由もありません。逆説的ですが、それだからこそ私はたくさんの農産物を自然栽培で作って、売ることができ、故郷の農地を守ることができていると思っています。今日もどこかでうちの農産物が食われて、誰かの体を巡っていると想像することはとても愉快なことです。今後もナチュラル・ハーモニーをよろしくお祈りします♪

<栽培品種>①コシヒカリ：「かかしの夢」にてお届けします。

山本 友花さん（山口県防府市）自然栽培開始年 2021年

長年自然栽培に取り組み、市議会議員を務める石田 卓成さんから事業継承で田畑を引き継ぎ、新規就農した山本さん。同じく事業を引き継いだ大本さんと共に奮闘の日々を送っています。



<今年の作柄>

今夏、山口の降雨量は前年比20%程でした。雨が降らないため田んぼに水を張れずとても苦労しました。穂が出た後も気温の高い日が続いたため、刈り取りの開始を例年より4日ほど早めましたが、1日で収穫できる量には限界があるため一気に全面積を刈取れず、収穫適期から遅れてしまう田んぼもあり胴割れ米が出てしまいました。別品種も作付けて生育と収穫のタイミングをずらす重要さを感じます。一年一年勉強です。なにぶん経験の浅さ故に迷惑をかけることもあるかもしれませんが頑張りますので今後ともよろしくお祈りします。

<メッセージ>

今年も無事に収穫することが出来ました。今夏は雨が降らず高温が続き、人間にとっても稲にとっても過酷な状況が続きました。収穫量も昨年より減ってしまい、何が原因か……しっかり考えて来年のお米作りに繋がります。お米作りのチャンスは年1回、とても難しいです。ですが、皆さんに美味しく元気になるお米をお届けできるように精進しますので、今後ともよろしくお祈りします。

<栽培品種>①朝日（未） ②農林22号（未）：「朝日」にてお届けします。※屋号…佐波川流域集落営農

松本 一宏さん（福岡県朝倉市）自然栽培開始年 2007年

自然栽培を始めた当初、消費者の方から感謝の気持ちを伝えていただく機会があり、大切な誇りある仕事だと思えるようになったという松本さん。近年、大雨など自然環境の変化に悩まされることが多いそうですが、状況に柔軟に対応し、それを見て興味を持った人が少しずつでも自然栽培を始められるような自然な形の普及ができればいいと前向きに田んぼに向かいます。



<今年の作柄>

まず今年も無事に収穫できた事にほっとし、恵に感謝です。初期生育6月下旬～7月中旬あたりまでの雨が豪雨となり、場所によっては水に浸かったり流されたりしました。8月～9月は酷暑続きでしたが、気候に順応しながら育つ姿は実に感慨深く学びを得ております。

<メッセージ>

今年も無事に収穫ができた事に感謝しております。自然栽培のお米を食していただきながらも心身共に喜びを感じてもらえたら幸いです。いつもいつもありがとうございます。

<栽培品種>①朝日（未） ②イセヒカリ（未）：「朝日」にてお届けします。



品質表示ラベルの表記について

JAS法（農産物資の規格化等に関する法律）に基づきお米の情報表示は販売者の義務になっています。その中で品種や産年の情報を表示するには第三者機関による「農産物検査」で証明を受け、偽装や混乱を防ぐルールとなっています。

ただしこの農産物検査は、各都道府県ごとに指定されている「産地品種銘柄」に該当する品種しか受けられません。例えば沖縄県でササニシキを栽培しても、沖縄の産地品種銘柄ではないため検査を受けられません。検査を受けていないお米のラベルには「産地未検査」「複数原料米」と印字しなければなりません。

自然栽培に取り組む生産者は、農薬や肥料が広く普及する前の時代の品種を選ぶ傾向があります。その様な品種は現代では栽培する生産者が少ないため「産地品

種銘柄」に該当しない事が多くあります。また自家採種を長年継続することでお米の形質が変化し、ある年突然検査に通らなくなるという事もあります。

私たちは生産者が自然栽培を継続するために、田んぼにあったお米を選び、自家採種を続ける取り組みを応援したいと考えています。

ナチュラル・ハーモニーでは、複数の生産者のお米や複数の産年のお米を混ぜて販売することはしていませんが、ラベルの表記は法律で決まったルールがあるため、皆様にはわかりにくいなどのご不便をおかけしてしまいますが、このような事情と理由がございますことをご理解をいただければ幸いです。